

REDD+資金をめぐる最新動向 COP25と緑の気候基金

林野庁計画課国際森林減少対策調整官

中野 彰子

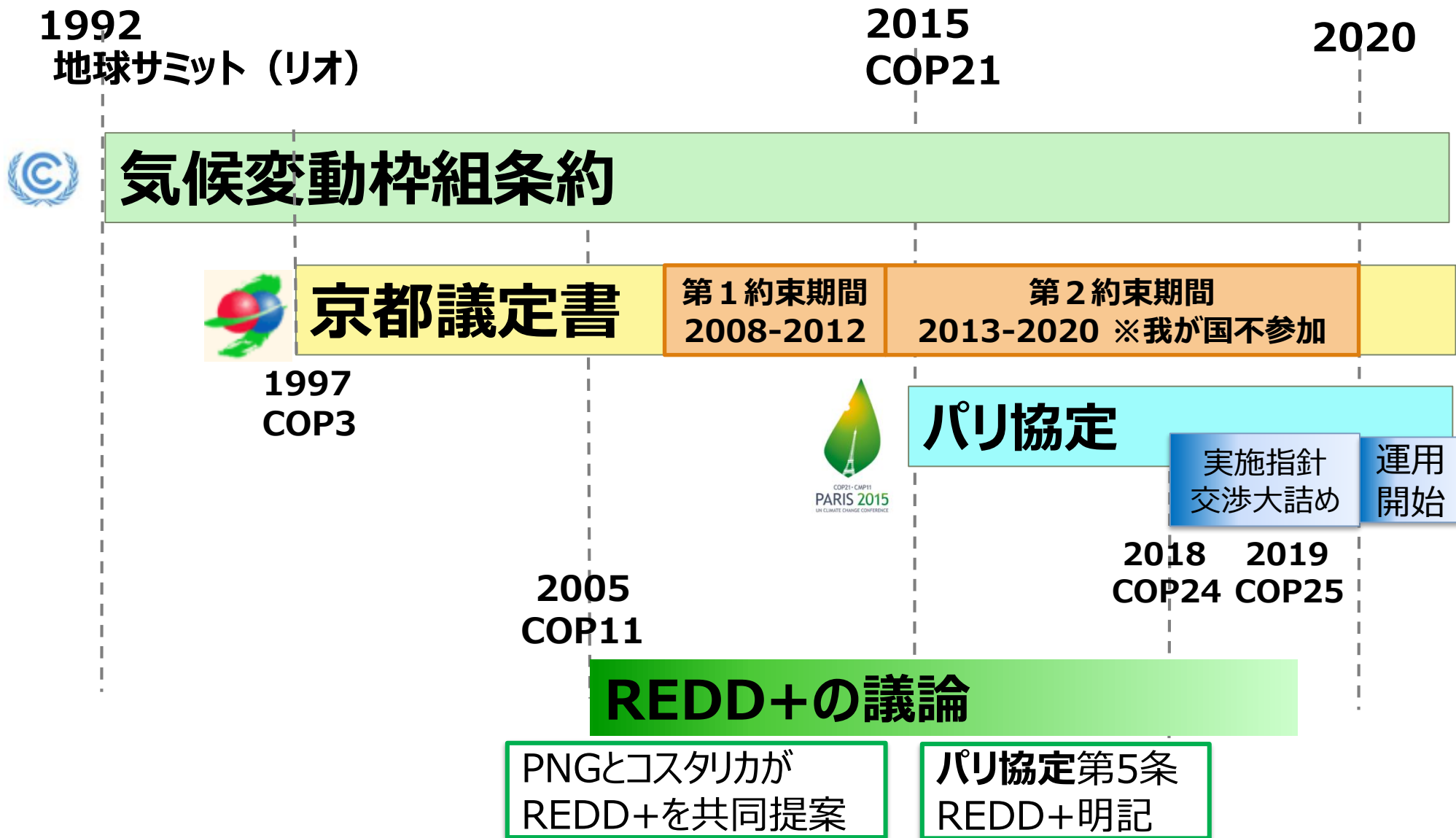
2019年12月26日

目次

- COP25におけるREDD + 関連事項
- 緑の気候基金（GCF）での議論の動向

COP25 におけるREDD+関連事項

気候変動条約とREDD+の系譜



REDD+の基本コンセプト

● REDD+とは

途上国における森林減少・森林劣化に由来する排出の抑制
並びに森林保全、持続可能な森林経営、森林炭素蓄積の増強

Reducing emissions from deforestation and forest degradation and the role of conservation, sustainable management of forests and enhancement of forest carbon stocks in developing countries

● REDD+の流れ：段階的アプローチ

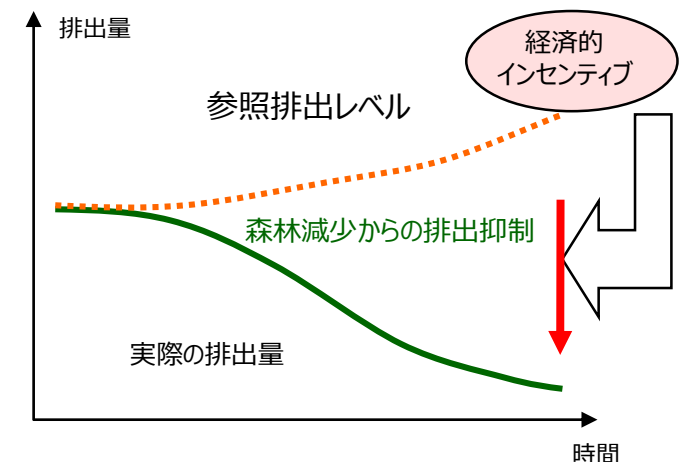


● REDDプラスのコンセプト

排出削減量に基づき成果支払い(資金やクレジット)を実施する
経済的インセンティブ

● REDD+準備活動の内容

- ① REDD+国家戦略(NRS)、
- ② 国家森林参照レベル(FREL)、
- ③ 国家森林モニタリングシステム(NFMS)、
- ④ セーフガード(ガバナンス、社会、環境及び気候)情報提供システム(SIS)



REDD+の議論の変遷

発案

2005

途上国の森林減少・劣化に由来する排出削減等
パプア・ニューギニアとコスタリカ提案

2006

スターン・レビュー
気候変動の経済学
森林減少抑制の費用対効果を評価

概念の合意

2010

カンクン合意

REDD+の活動、途上国が整備すべき要素
を明記

2007

IPCC 第4次評価報告書
森林減少抑制の削減ポテンシャルの
大きさを指摘

技術指針決定

2013

ワルシャワ枠組

技術指針、資金や支援の調整のあり方を採択。

条文に規定

2015

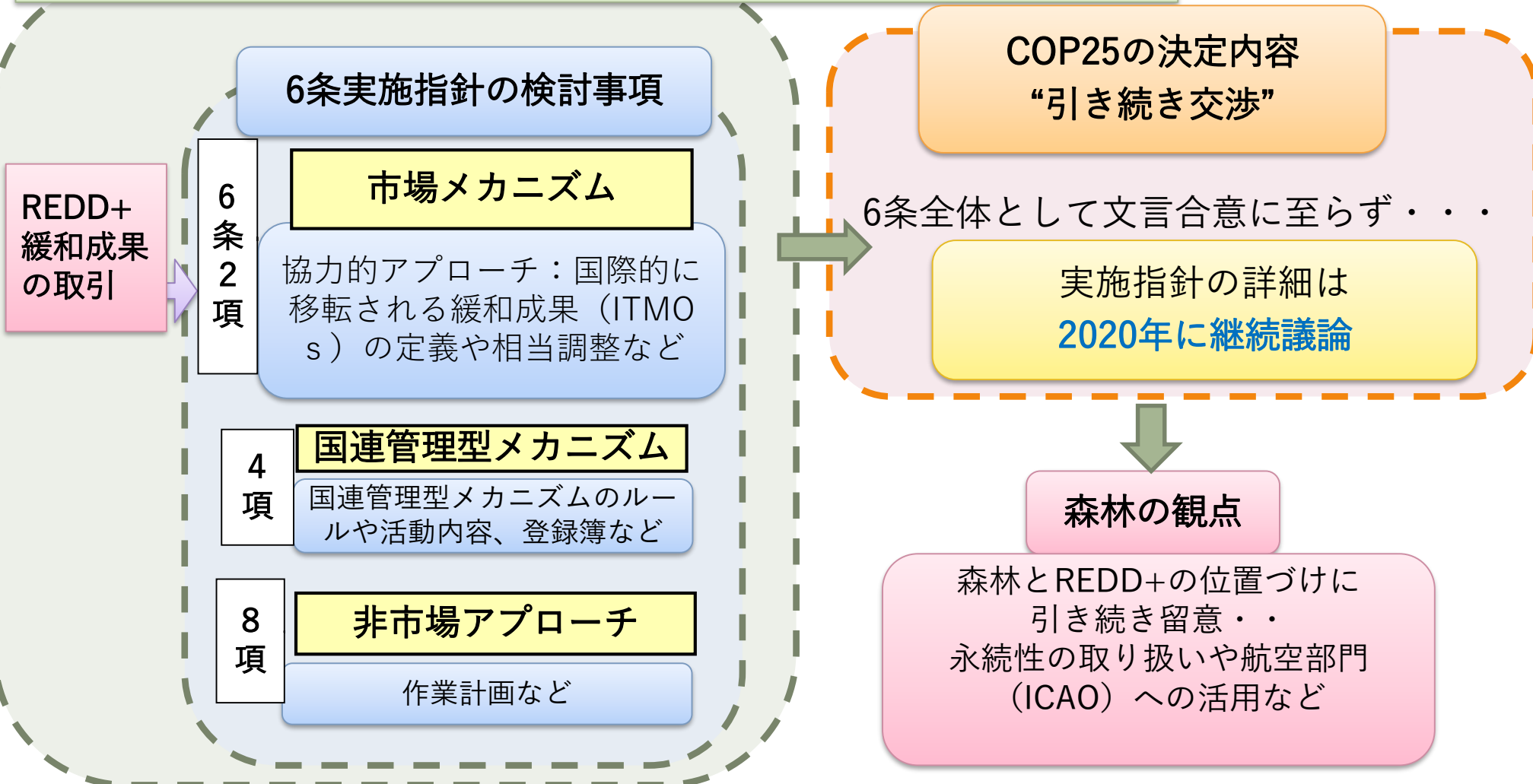
パリ協定

第5条第2項：REDD+の実施・支援を奨励。

COP25におけるパリ協定実施指針とREDD+

パリ協定第6条：国際的な緩和効果の移転

→COP24につづき、COP25で実施指針に合意できず継続交渉。



緑の気候基金（GCF）での議論の動向

REDD+支援に関する国際資金のイメージ

Green Climate Fund

緑の気候基金(GCF)はREDD+全フェーズを支援

UN-REDD Programme
(国連系)

Bio-carbon Fund (世銀)

FCPF Readiness Fund (世銀)

FCPF Carbon Fund (世銀)

Central Africa Forest Initiative
(ノルウェーほか)

Amazon Fund
(ノルウェーほか)

Forest Investment Programme
(世銀)

GEF SFM

フェーズ1:
Readiness

フェーズ2:
Implementation

フェーズ3: Results-based
Payments

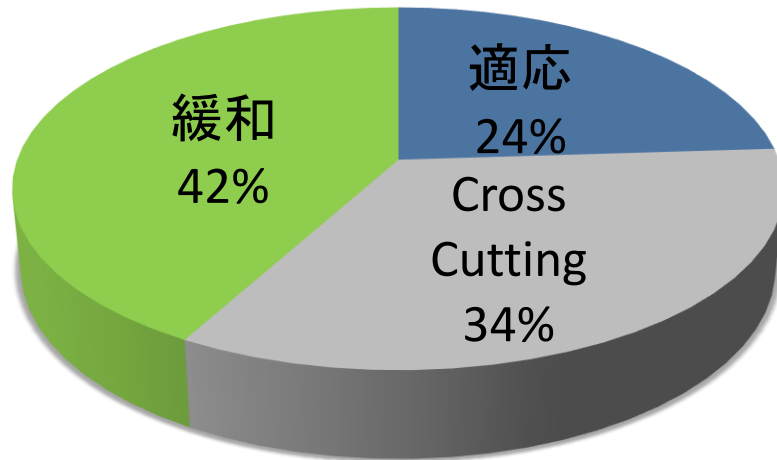
緑の気候基金（GCF）の概要



- 設立：気候変動枠組条約（UNFCCC）COP16で設立決定。
- 目的：途上国による温室効果ガス削減（緩和）と気候変動の影響への対処（適応）の支援。
- 意思決定：毎年2～3回開催されるGCF理事会。
- 理事会構成：先進国と途上国から各12名の合計24名。

資金拠出の基本理念：長期的に見て、緩和と適応に半分ずつ。地域バランスにも配慮。

資金拠出の割合



出典：GCF Websiteを元に作成（2019年12月25日時点）

優先分野

緩和（温室効果ガス削減）

発電、エネルギーアクセス向上（再エネ）
交通
建物、都市、産業、家電（省エネ）
森林・土地利用

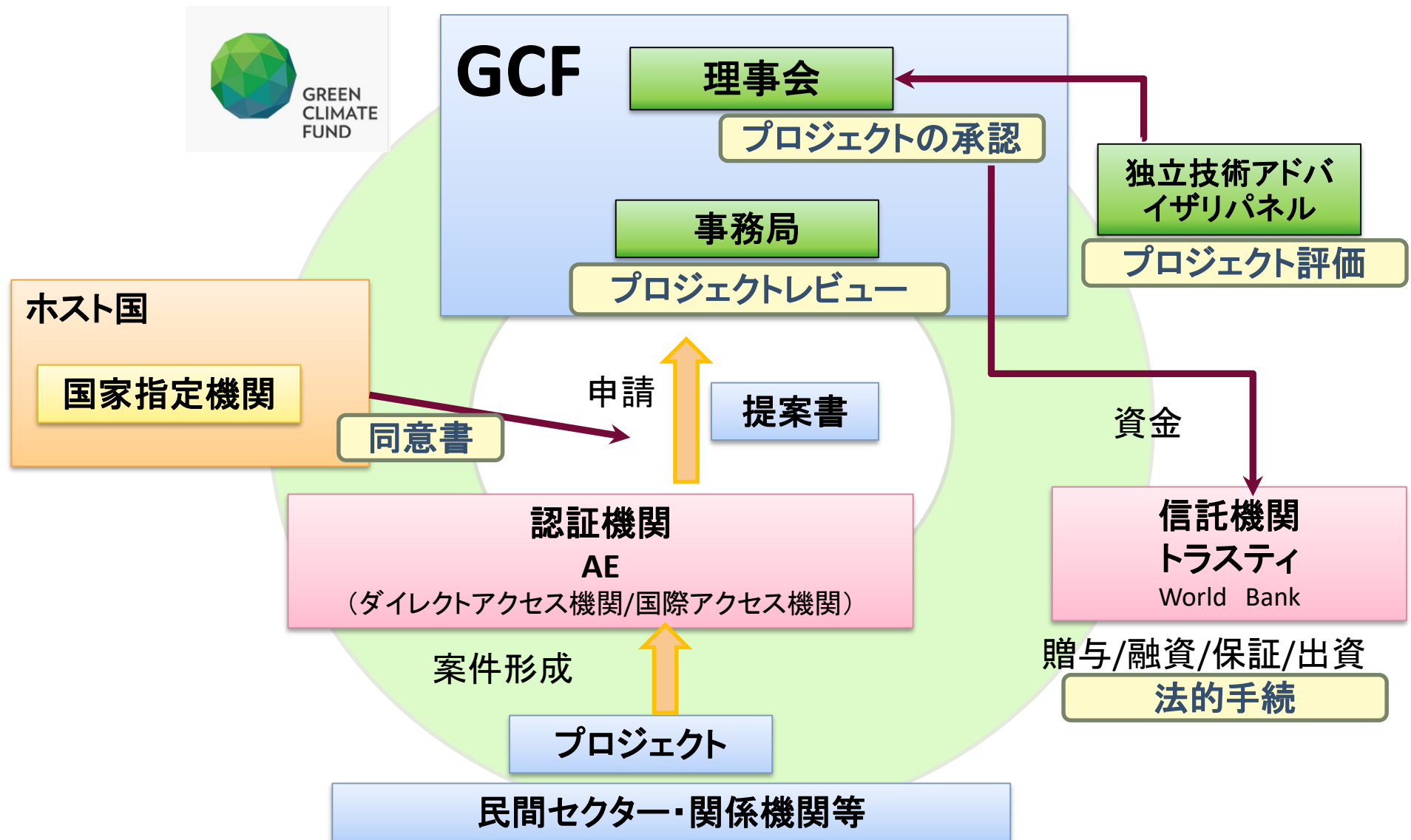
適応（気候強靱性の強化）

生態系・生態系サービス
インフラ・建築環境
健康・食糧・水の安全
住民・コミュニティの生計向上



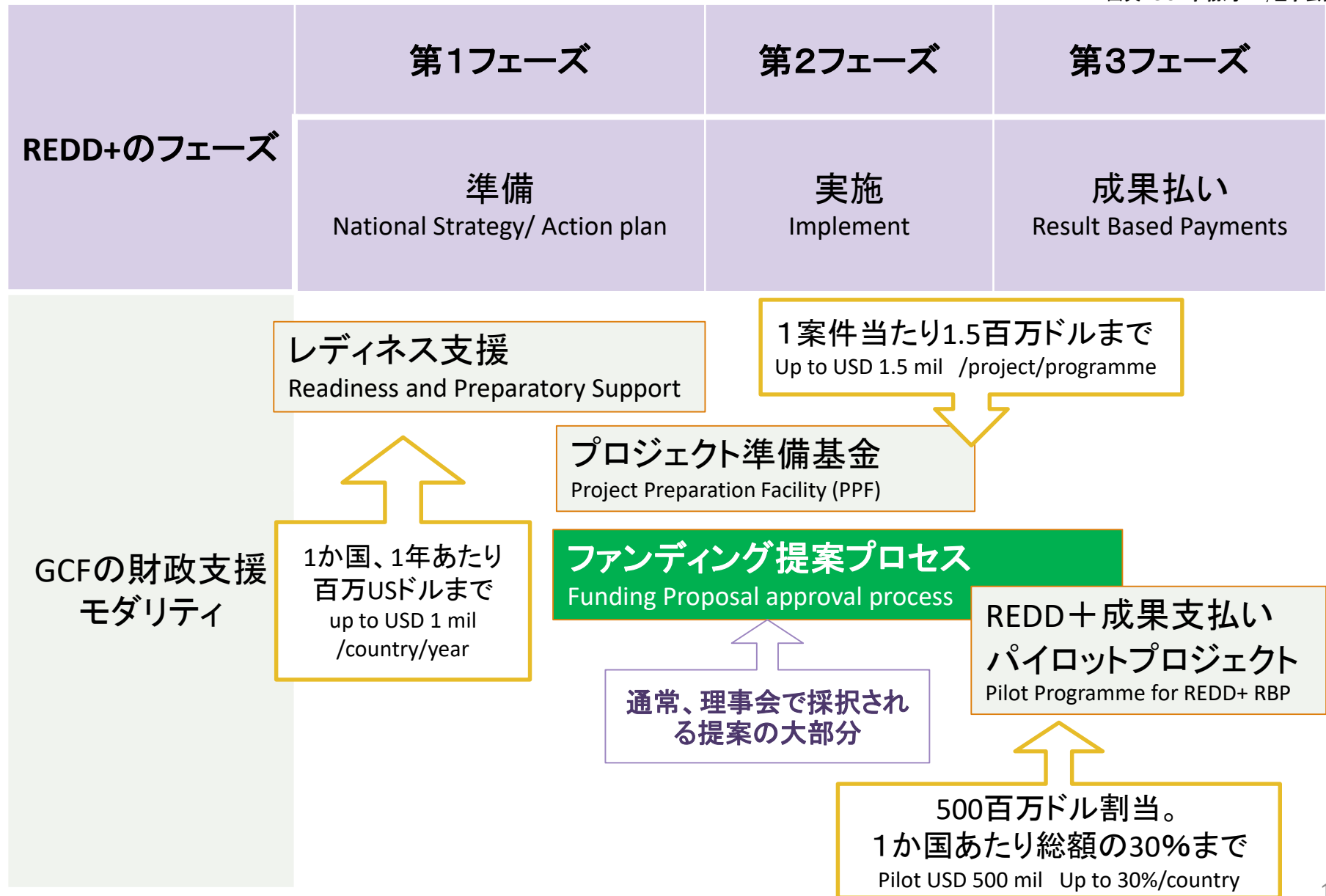
GCF事務局：韓国仁川市

GCFの案件採択のイメージ



GCFのREDD+フェーズ別支援

出典: GCF事務局HP, 理事会資料



GCFにおけるREDD+関連議論

2016年

10月 第14回理事会 成果支払いを含む**全フェーズへのREDD+支援を決定。**

12月 第15回理事会 REDD+担当理事（カナダ、DRC）の任命

2017年

4月 第16回理事会 REDD+専門家ワークショップ開催

7月 第17回理事会 初期フェーズのREDD+支援のあり方を検討

RPF等既存のGCFプログラムの積極的活用を奨励

10月 第18回理事会 **成果支払いのパイロットプログラム（5億ドル）を決定**

2019年

2月 第22回理事会 RBPパイロットプログラム 初提案のアマゾンプロジェクトを採択

7月 第23回理事会 RBPパイロットプログラム エクアドル案件を採択

11月 第24回理事会 RBPパイロットプログラム チリとパラグアイの2件採択

REDD+成果支払いパイロットプログラム (REDD+RBP)の概要

出典：GCF事務局HP,理事会資料

～理事会決定事項～

プロジェクト 期間	Open for	2017年から22年の5年間	2017-22
資金総額	Envelope	5億ドルを割当	USD 500 mil
支払単価	Financial Valuation	CO2換算でトン当たり5ドル	USD 5 per tCO2e
プロジェクト有 効期間	Eligibility Period	2014年から2018年	31 Dec 2013- 31 Dec 2018
アクセス機関	Access Modality	認証機関	Accredited Entities
提出書類	Submission	コンセプトノートと ファンディングプロポーザル	Concept notes and funding proposals
評価方法	Assessment	スコアカード形式	Scorecard

REDD+RBPの手順

出典：GCF事務局HP,理事会資料

UNFCCC で規定されるREDD + 活動の要件を満たす (ワルシャワ枠組み)	1 国家戦略/行動計画 2 参照レベル FREL/ FRL 3 国家森林モニタリングシステム 4 セーフガード情報システム
↓	
隔年報告書の提出	排出削減量の報告
↓	
提案書提出、スコアカードで 評価を受ける	成果支払い分の算定

- 申請規模 (Scale) 国レベル (暫定的に準国レベル)
 - 申請期間 (Application Period) 2020年頃までに申請書を提出
(2022年最後の理事会で承認)
 - 採択方式 (Rolling Basis) 先着順に理事会で審議
- + 中間評価の実施
※2020年上半期の見込み

REDD + RBP支払い額の決定

出典: GCF事務局HP, 理事会資料

STEP1 認証機関 (AE)が排出削減量を算出 (提出ERs)

STEP2 スコアカードに基づく「GCF認定ERs」の算定。

$$\text{提出ERs} \times \text{スコアカード達成率} = \text{GCF認定ERs}$$

STEP 3 成果支払い額の算出

$$\text{GCF認定ERs} \times \text{USD 5/ t(CO2eq)} = \text{成果支払暫定額 (A)}$$

STEP 4 非炭素便益への評価上乗せ額の算出

$$\text{成果支払暫定額} \times 2.5\% = \text{非炭素便益上乗せ額 (B)}$$

STEP 5 成果支払額 (案) の決定

$$\text{暫定額 (A)} + \text{上乗せ額 (B)} = \text{成果支払額 (案)}$$

 成果支払額 (案) は、理事会にて採択可否が審議される。

REDD+RBP案件の承認(1件目)

ブラジル:アマゾン流域におけるREDD+成果

出典: GCF事務局HP, 理事会資料

申請期間: 2014年~2015年のREDD+活動



登録機関: 国連開発計画 (UNDP)

分類: 緩和

PROJECT
FP100

18.8m

TONNES of CO₂

Anticipated tonnes of CO₂ equivalent avoided

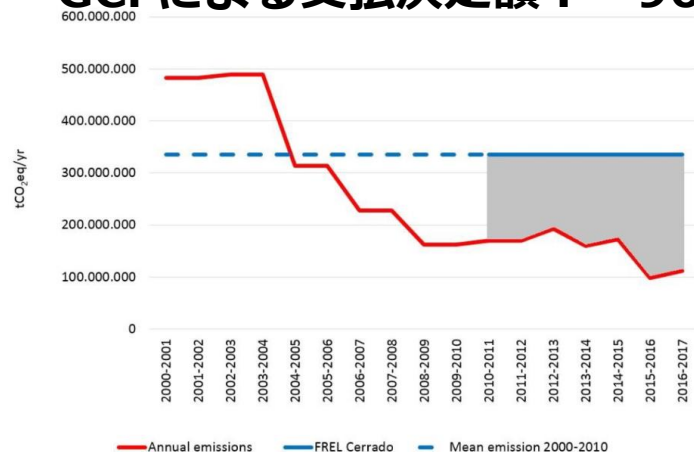
REDD+ results-based payments for results achieved by Brazil in the Amazon biome in 2014 and 2015

達成したGHG削減量: 25百万トン (CO₂換算)

GCF認定削減量: 18.8百万トン (25百万トン×75% (スコアカード採点))

非炭素便益に対する上乗せ: 2.5%

GCFによる支払決定額: 96百万ドル (96,452,228usd)



REDD+RBP案件の承認(2件目)

エクアドル：森林減少抑制によるREDD+成果

出典：GCF事務局HP,理事会資料

申請期間：2014年の森林減少抑制REDD+活動

登録機関：国連開発計画（UNDP）



分類：緩和

達成したGHG削減量：4.8百万トン（CO2換算）

GCF認定削減量：3.6百万トン（4.8百万トン×75%（スコアカード採点））

非炭素便益に対する上乘せ：2.5%

GCFによる支払決定額：18.6百万ドル
(18,571,766usd)

3.6m

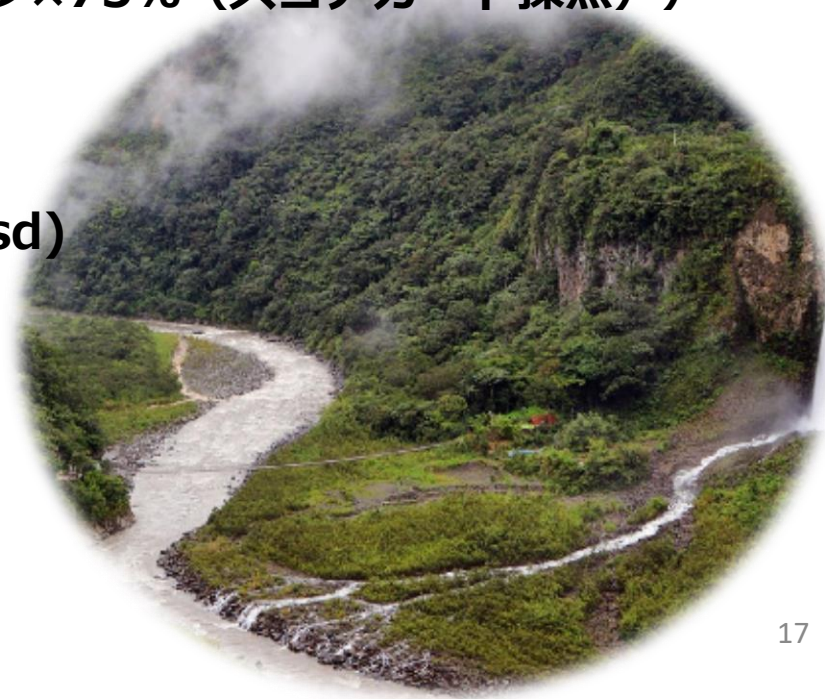
TONNES of CO₂

Anticipated tonnes of CO₂ equivalent avoided

PROJECT
FP110



Ecuador REDD-plus RBP for results period 2014



REDD+RBP案件の承認(3件目)

チリ: 森林減少抑制によるREDD+成果

出典: GCF事務局HP, 理事会資料

申請期間: 2014~2016年の森林減少抑制REDD+活動

登録機関: 国連食糧農業機関 (FAO)

分類: 緩和



12.4m

TONNES of CO₂

Anticipated tonnes of CO₂ equivalent avoided

達成したGHG削減量: 14.5百万トン (CO₂換算)

GCF認定削減量: 12.4百万トン (14.5百万トン×85% (スコアカード採点))

非炭素便益に対する上乘せ: 2.5%

GCFによる支払決定額: 63.6百万ドル
(63,607,552usd)

PROJECT
FP120

Chile REDD-plus Results-based Payments for
results period 2014-2016



REDD+RBP案件の承認(4件目)

パラグアイ: 森林減少抑制によるREDD+成果

出典: GCF事務局HP, 理事会資料

プロジェクトの概要: 2015~2017年の森林減少抑制REDD+活動

登録機関: 国連環境計画 (UNEP)



分類: 緩和

9.8m

TONNES of CO₂

Anticipated tonnes of CO₂ equivalent avoided

達成したGHG削減量: 18.9百万トン (CO₂換算)

GCF認定削減量: 14.1百万トン (18.9百万トン×75% (スコアカード採点))

非炭素便益に対する上乘せ: 2.5%

申請支払額: 72.5百万ドル

うち、使途の決定しているのは50百万ドル

GCFによる支払決定額: 50百万ドル

PROJECT
FP121

REDD+ Results-based payments in Paraguay for the period 2015-2017



COP25サイドイベント：GCF-1

“GCF-1 Raising Ambition. Empowering Action”



日 時

12月11日 15：00-16:30

会 場

サイドイベント会場

主 催

緑の気候基金（GCF）

小泉環境大臣ご発言

日本はGCFの責任ある理事メンバーとして累積30億米ドルをプレッジする最大級のドナー。今後もLDC、小島しょ国及びアフリカを重視し途上国の行動を後押ししていく。気候アクションにはミレニウム世代が欠かせない。若者が新しい技術やイノベーションを起こす支援をできる取り組みもGCFに期待。

（ご発言（英語）内容の一部を講師にて仮訳。）

2019年の動きの振り返り

GCF

2月 第22回理事会

4月 第1回増資協議

7月 第23回理事会

8月 第2回増資協議

10月 増資プレッジ会合

11月 第24回理事会

UNFCCC

6月 SB50 ボン会合

6条に関しては専門家レベルの技術的非公式会合が断続的に開催された。

2019年末 UNFCCC COP25 @スペイン

パリ協定実施に向けた最終準備であった2019年が終了する。
実施指針の継続協議を含め、2020年にパリ協定が本格運用を迎える。

ご清聴ありがとうございました。